

はじめに

本書は、観光産業と地域振興の関係を、多様な視点から考えるための入門書である。観光という言葉から、多くの人は旅行、名所、宿泊、食事、レジャーといった場面を思い浮かべるだろう。しかし現在の観光は、人口減少、地方創生、関係人口、働き方の変化、テレワーク、ワーケーション、地域交通、インバウンドなど、現代社会のさまざまな変化と深く関わりながら、その意味を広げている。

地域振興もまた、単に地域をにぎやかにすることや、観光客を増やすことだけを意味するわけではない。地域で暮らす人々の生活、交通、産業、文化、自然環境、外部との交流、将来への持続可能性などを含めて、地域のあり方そのものを考える営みである。したがって、観光産業と地域振興は、別々に学ぶよりも、相互に結びついた1つの流れとして捉える方が理解しやすい。

本書では、観光産業と地域振興の基本的な考え方を整理したうえで、地方創生と関係人口、労働と余暇、ワーケーションとコワーキングスペース、観光交通と地域交通、地域資源の活用、インバウンドと地域の受け入れを順に取り上げる。いずれも現代の観光産業と地域振興を考えるうえで重要な論点であり、それぞれが独立した話題であると同時に、互いに深く関わっている。

本書の特徴は、観光を単なる旅行需要の問題としてではなく、人の移動、働き方、地域資源、地域との関係形成という広い視野から捉えている点にある。観光客をどう集めるかだけでなく、どのような人が地域とつながるのか、どのような滞在が地域の価値を高めるのか、地域はどのような受け入れの仕組みをつくるべきかを考えることが、本書の大きな課題である。

この視点は、筆者自身の研究・実務・教育の経験にも基づいている。筆者はこれまで、国土交通省・観光庁における観光政策、大阪城トライアスロンの立ち上げと継続的な関与、自治体における地域交通政策への実務支援、島嶼地域や山岳地域でのフィールド調査、コワーキングスペースを対象とした質的研究などに関わってきた。また、各地のジオパークや島嶼地域に関する研究助成を

受けながら、日本各地でフィールド調査を重ねてきた。大学教育においては、観光産業、観光交通、サービス・マネジメント、インバウンド論などの授業を担当してきた。本書は、こうした経験を踏まえ、観光を現場の課題と結びつけながら理解するための入門書として構成している。

また、本書は知識を一方的に学ぶためだけのものではない。最終的には、自分の身近な地域を対象に、観光産業と地域振興のあり方を考え、提案としてまとめることを目指している。各章で得た視点を、最後に自分の言葉による地域提案へ結びつける構成としている。

観光産業と地域振興には、唯一の正解があるわけではない。地域ごとに条件は異なり、関わる人々の立場も多様である。だからこそ大切なのは、地域をよく見て、何が課題で、何が価値で、どのような可能性があるのかを考えることである。本書を、観光産業を入口に地域を立体的に理解するための手引きとして活用してほしい。

表 O-1 本書全体の構成と各章の役割

段階	対応する章	読み進めるうえでの役割
導入	第1章	観光産業と地域振興をつなぐ基本視点を確認する
背景理解	第2章～第3章	人口減少、関係人口、働き方の変化を理解する
具体的領域	第4章～第7章	ワーケーション、交通、地域資源、インバウンドを学ぶ
応用	第8章	身近な地域を対象に課題を見つけ、提案にまとめる
まとめ・補足	参考文献・おわりに・付録 用語集	参考文献を確認し、学んだ視点を振り返り、自分の理解を整理する

出所：著者作成（本書全体の章構成に基づく独自整理）。

観光産業と地域振興入門

— 移動・働き方・地域資源から考える —

目 次

第1章 観光産業と地域振興をどう捉えるか 1

1. この章で学ぶこと 1
2. 観光産業とは何か 1
3. 地域振興とは何か 1
4. 観光は地域に何をもたらすのか 2
5. なぜ観光産業と地域振興を一緒に考えるのか 2
6. 本書で重視する5つの視点 3
7. 身近な地域を考えることから始めよう 5

第2章 地方創生・人口減少・関係人口 9

1. この章で学ぶこと 9
2. 人口減少社会と地域の課題 9
3. 地方創生とは何か 10
4. 定住人口・交流人口・関係人口 11
5. なぜ関係人口が注目されるのか 14
6. 観光と関係人口はどうつながるのか 15
7. 地域にとって関係人口はどのような意味を持つか 18
8. 身近な地域から考えてみよう 22

第3章 労働と余暇、そして新しい働き方 25

1. この章で学ぶこと 25
2. 労働と余暇をどう捉えるか 25
3. 近代社会における労働と余暇の分離 26
4. 働き方改革とテレワークの広がり 27
5. 仕事を通じた地域との接点 28
6. 生活空間の変化と観光・地域 30
7. 労働と余暇の境界が揺らぐことの意味 31

8. 身近な生活から考えてみよう 33

第4章 ワーケーションとコワーキングスペース…………… 35

1. この章で学ぶこと 35
2. ワーケーションとは何か 35
3. ワーケーションとウェルビーイング 37
4. 地域から見たワーケーションの可能性 38
5. コワーキングスペースとは何か 40
6. コワーキングスペースと地域コミュニティ 41
7. 一時的滞在から継続的な関わりへ 44
8. 地域に求められる条件とは何か 46

第5章 観光交通・地域交通・モビリティ…………… 51

1. この章で学ぶこと 51
2. 観光交通とは何か 51
3. 地域交通とは何か 52
4. 観光交通と地域交通はどうつながるのか 55
5. モビリティという視点で地域を見る 56
6. オンデマンド交通と新しい移動サービス 59
7. AI・自動運転・ライドシェア・MaaSの可能性と限界 62
8. 移動の不便さは地域課題か、地域資源か 64
9. 身近な地域から考えてみよう 66

第6章 地域資源を活かす観光産業…………… 69

1. この章で学ぶこと 69
2. 地域資源とは何か 69
3. 島嶼地域の観光産業と地域振興 70
4. 山岳地域の観光産業と地域振興 72
5. ジオパークと地域資源の学術的価値 74

- 6. スポーツツーリズムと地域振興 76
- 7. 地域資源活用の共通課題 78
- 8. 資源を「あるもの」から「活かせるもの」へ 81
- 9. 身近な地域から考えてみよう 84

第7章 インバウンドと地域の受け入れ 89

- 1. この章で学ぶこと 89
- 2. アウトバウンドからインバウンドへ 89
- 3. インバウンドが地域にもたらすもの 91
- 4. 地域の受け入れ体制とは何か 92
- 5. 多言語対応と「伝わる」工夫 93
- 6. 地域住民との関係と受け入れのバランス 96
- 7. インバウンドと地域資源の再編集 98
- 8. 持続可能なインバウンドとは何か 98
- 9. 身近な地域から考えてみよう 100

第8章 地域課題を見つけ、提案にまとめる 102

- 1. この章で学ぶこと 102
- 2. 地域課題はどのように見つけるのか 102
- 3. 「課題」と「現象」を区別する 104
- 4. 地域を見るための5つの視点 106
- 5. 関係者を整理する 107
- 6. どのようなデータや情報を使えばよいか 109
- 7. 提案は「理想」だけでなく「実現可能性」で考える 110
- 8. KPIをどう考えるか 112
- 9. 発表は「何を言うか」だけでなく「どう伝わるか」で決まる 114
- 10. 身近な地域から始める提案の意義 116

おわりに 122

付録 用語集 125

著者紹介 131

第1章

観光産業と地域振興をどう捉えるか

—なぜ今、この2つを一緒に学ぶのか—

1. この章で学ぶこと

この章では、観光産業と地域振興の基本的な考え方を整理する。まず観光産業とは何か、地域振興とは何かを確認し、つぎに観光が地域に何をもたらすのかを考える。そのうえで、なぜこの2つを一緒に学ぶ必要があるのかを明らかにし、本書全体を貫く視点を示す。

2. 観光産業とは何か

観光産業とは、旅行者や来訪者の移動、滞在、消費、体験を支える多様な事業の総体である。旅行会社や宿泊業だけでなく、鉄道・バス・航空などの交通、飲食、小売、土産物、体験プログラム、イベント運営、観光案内、情報発信など、多くの分野が関わっている。

重要なのは、観光産業が単独の業種で完結しにくい点である。宿泊施設だけが整っていても、交通が不便であれば旅行者は来にくい。交通があっても、地域内で滞在したくなる空間やサービスがなければ満足度は高まらない。観光産業とは、多様な主体が地域のなかで連動する仕組みである。

3. 地域振興とは何か

地域振興とは、地域が持つ資源や特性を活かしながら、暮らしや経済、交流の質を高めていく取り組みである。単に人をたくさん呼ぶことや、イベントを盛り上げることだけを意味するのではなく、雇用、生活サービス、誇り、つな

がり、将来への持続可能性を含む広い概念である。

人口減少や高齢化が進む地域では、交通の縮小、商店街の衰退、担い手不足、空き家増加など、さまざまな課題が重なっている。地域振興は、そうした現実のなかで、どのように地域の価値を維持し、次世代へつなぐかを考える営みでもある。

4. 観光は地域に何をもたらすのか

観光は、地域外から人を呼び込み、交通、宿泊、飲食、買い物、体験活動などを通じて地域経済に一定の効果をもたらす。また、外部の視点によって、地域の風景や食文化、歴史が新たな価値として見直されることもある。

一方で、観光は万能薬ではない。来訪者が増えても、地域内に利益が残らなければ地域振興にはつながりにくい。混雑や騒音、ごみ問題などが住民生活の負担になる場合もある。大切なのは、人数だけではなく、観光によってどのような関係や変化が地域に生まれるかを見ることである。

5. なぜ観光産業と地域振興を一緒に考えるのか

観光客が地域を訪れるとき、その舞台となるのは地域社会そのものである。景観、文化、交通、商店、住民の暮らし、資源の保全状況など、あらゆる要素が観光体験に関わっている。したがって、観光を理解することは、地域の経済構造や社会構造を理解することにもつながる。

また、地域振興の側から見ても、観光は外部との接点をつくる重要な契機である。人口減少社会では、定住人口だけでなく、地域に繰り返し関わる人、応援する人、学びや仕事を通じてつながる人の存在が重要になる。観光産業と地域振興は、相互に影響し合う一体的なテーマなのである。

(1) 観光産業と地域振興は「部分」ではなく「全体」でつながっている

観光産業と地域振興を一緒に考える必要があるのは、観光が地域の一部分だ

けで成立するものではないからである。旅行者が見る景観、利用する交通、泊まる宿、立ち寄る商店、地域の清潔感、住民との接触、案内表示のわかりやすさなどは、すべて地域社会全体のあり方と結びついている。したがって、観光を伸ばすことは、単に観光施設やイベントを増やすことなく、地域全体の受け入れ条件や魅力の見せ方を整えることでもある。

逆に、地域振興の側から見ても、観光は外部との接点を生み出す重要な入口である。地域のなかだけで経済や交流を完結させることが難しくなっている時代において、観光は地域外の人々に地域の価値を伝え、消費や情報発信、再訪、関係形成へつなげる機会を持っている。つまり、観光産業と地域振興は、片方が他方に従属するのではなく、相互に支え合う関係として捉える必要がある。

(2) 地域を見るときに「観光の視点」が役立つ理由

観光の視点が地域理解に役立つのは、地域の価値を「外から来る人にも伝わるか」という観点で見直せるからである。地域の人にとって当たり前になっている風景や習慣、食、交通、空間の使い方も、外部の人にとっては魅力になりうる。一方で、地域の内側では気づきにくい不便さやわかりにくさも、外部の視点から見ると明確になることがある。

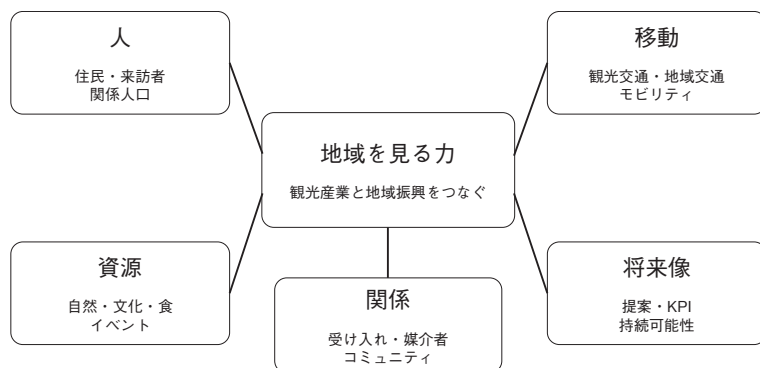
この意味で、観光の視点は地域の価値を外向きに翻訳する視点であると同時に、地域の課題を照らし出す視点でもある。観光産業と地域振興を一緒に学ぶとは、地域を売り出す方法だけでなく、地域をどのように見つめ直すかを学ぶことでもある。

6. 本書で重視する 5 つの視点

本書では、第1に人、第2に移動、第3に資源、第4に関係、第5に将来像という5つの視点を重視する。観光は単独の産業分野ではなく、住民や来訪者、交通条件、地域資源の意味づけ、地域内外の関係、そして将来像と結びついているからである。働き方や暮らし方の変化は、これらの視点を横断して地

域との関わり方を変える重要なテーマとして扱う。

この5つの視点を持つことで、地域を単なる観光地としてではなく、人が暮らし、移動し、働き、学び、関係を育てる場として立体的に捉えやすくなる。



5つの視点を往復しながら、地域を立体的に理解する

図 1-1 本書で重視する5つの視点

出所：著者作成（本書全体の章構成と概念整理に基づく独自整理）。

（1）本書全体を貫く視点のつながり

本書で示した5つの視点は、それぞれ独立したテーマではない。人の視点は第2章の人口・関係人口、第3章・第4章の働き方と暮らし方につながる。移動の視点は第5章で具体的に扱われ、資源の視点は第6章で展開される。関係の視点は第2章・第4章・第7章を横断し、将来像の視点は第8章で自分の言葉による提案へ結びつく。

したがって、本書は「観光」「交通」「ワーケーション」「地域資源」などを別々に学ぶ本ではない。むしろ、地域を多面的に見るための視点を行き来しながら、最終的に地域をどのように理解し、どのように関わるかを考える本である。読者には、それぞれの章を個別知識として読むだけでなく、章と章のつながりに注意しながら読み進めてほしい。

(2) 観光産業と地域振興をつなぐ3つの循環

観光産業と地域振興の関係をより具体的に理解するためには、両者の結びつきを1つの因果関係としてではなく、いくつかの循環として見るとわかりやすい。第1は、来訪によって消費が生まれ、その消費が地域内の事業や雇用を支えるという経済循環である。第2は、来訪者が地域の魅力や課題に触れることで、その地域に対する理解や発信が広がるという情報循環である。第3は、来訪をきっかけとして再訪、応援、参加、協働などが生まれ、地域内外の関係が育つという関係循環である。

この3つの循環は互いに独立しているわけではない。たとえば、ある地域での滞在経験が印象に残れば、来訪者はSNSや口コミでその魅力を発信するかもしれない。それが新たな来訪を生み、地域内の消費を支え、その地域に関わる人を増やす可能性がある。逆に、地域資源の価値が十分に伝わらず、来訪後の接点も弱ければ、消費は一時的に生まれても情報循環や関係循環にはつながりにくい。したがって、観光産業を地域振興につなげるには、単に来訪者数や売上高を見るのではなく、こうした循環が地域のなかでどのように回っているかを考える必要がある。

本書が観光産業と地域振興を一体で捉えるのは、この循環を見落とさないためでもある。観光は地域に人を呼び込む行為であると同時に、地域の外と内をつなぎ直し、地域の価値を再認識させる契機でもある。つまり、観光産業は地域の部分的な一部門ではなく、地域経済、地域社会、地域の将来像をつなぐ接点として理解することができるのである。

7. 身近な地域を考えることから始めよう

観光産業と地域振興を学ぶ際、つい有名観光地や大規模プロジェクトばかりに目が向きがちである。しかし、本当に重要なのは、自分の身近な地域を観察し、そこにある資源や課題を自分の言葉で捉えることである。

最寄り駅周辺の案内、歩行環境、商店街の様子、地域イベントの内容などを見ていくと、観光と地域の暮らしがどのように接しているのかが見えてくる。

身近な地域から考えることは、地域を見る力を養う出発点になる。

(1) 身近な地域を対象にすることの意味

身近な地域を対象にすることには、大きな意味がある。第1に、繰り返し観察できるため、本書で整理した視点を実際の空間に当てはめやすい。第2に、自分の経験と結びつけながら考えられるため、抽象的な知識が自分の言葉になりやすい。第3に、身近な地域の中にも、観光と地域振興の論点が確かに存在することに気づきやすい。

たとえば、駅前の案内、大学周辺の回遊、商店街の空き店舗、地域イベントの運営、歩行空間の快適性、外国人旅行者への対応などは、いずれも観光産業と地域振興の視点から考えることができる。身近な地域を見直すことは、観光を特別な場所の話としてではなく、自分が暮らす社会の問題として理解する入口になる。

(2) 本書を読むときの基本姿勢

本書は、観光産業に関する制度や業界知識を覚えるだけのための本ではない。むしろ、地域を見るときに、観光、移動、働き方、資源、受け入れ、提案といった複数の視点を行き来しながら考えるための本である。そのため、読者には各章を独立した知識として読むのではなく、「この章の内容は他の章とどうつながるのか」を意識しながら読む姿勢が求められる。

たとえば、第2章で扱う関係人口は、第4章のワーケーションやワーキングスペース、第6章の地域資源活用、第8章の地域提案の考え方とつながっている。第5章の交通やモビリティの議論は、第6章の地域資源活用や第7章の受け入れ体制の議論と接している。このように、本書は章ごとにテーマを分けながらも、最終的には「地域の可能性をどう捉え、どう関わるか」という一つの問いへ収斂するように構成している。

表 1-1 本書で重視する5つの視点と基本的な問い

視点	関連する主題	地域を見る問い
人	住民・来訪者・関係人口	だれが地域と関わっているか
移動	観光交通・地域交通・モビリティ	どう行き、どう回れるか
資源	自然・文化・食・イベント	何を価値として伝えるか
関係	コミュニティ・媒介者・受け入れ体制	だれとどうつながるか
将来像	地方創生・提案・KPI	地域をどう育てたいか

出所：著者作成（本書全体の章構成に基づく独自整理）。

コラム 1-1 筆者が観光と地域を一緒に考える理由

筆者はこれまで、鉄道会社、メーカー、行政、大学など、異なる立場で地域と関わってきた。立場が変わるたびに見える景色は違ったが、共通して感じたことがある。それは、観光だけを見ても地域はわからず、地域だけを見ても観光はわからない、ということである。

交通の現場では、人が移動する仕組みが地域のにぎわいを左右することを実感した。行政の現場では、施策は理想だけでは動かず、合意形成や運用の工夫が欠かせないことを学んだ。教育研究の現場では、地域を自分の問題として考えたとき、地域への理解が深まることを感じている。こうした経験から、筆者は観光を、旅の楽しさだけでなく、人の移動、地域資源、働き方、暮らし方、そして地域の未来を考える入口として捉えている。

まとめ 章のまとめ

- ・観光産業は、宿泊や旅行だけでなく、交通、飲食、小売、体験、情報発信など多くの分野から成る。

- ・地域振興は、地域の経済だけでなく、暮らしや交流の質を高め、地域の将来像を支える取り組みである。
- ・観光は地域に交流や消費をもたらす一方で、住民生活、環境、交通などとの調整も必要とする。
- ・観光産業と地域振興は相互に結びついており、切り離して考えることはできない。
- ・本書では、人、移動、資源、関係、将来像という5つの視点から、観光と地域を一体的に考える。

次章への接続 次章では、この基本視点を人口減少社会と地方創生の文脈に当てはめ、地域との新しい関わり方である関係人口を考える。

確認問題

1. 観光産業には、旅行・宿泊以外にどのような分野が含まれるか。
2. 地域振興とは、地域の何を高めようとする取り組みか。
3. 観光が地域にもたらす効果と課題を、それぞれ1つずつ挙げなさい。
4. 本書で重視する5つの視点を挙げ、それぞれが地域を見る際にどのように役立つかを簡潔に説明しなさい。

考察問題

1. あなたの身近な地域で、「観光」と「地域の暮らし」が接している場面を1つ挙げなさい。
2. 観光を地域振興につなげるためには、来訪者数以外に何を見る必要があるか。あなたの考えを述べなさい。